

第２０回 神戸電鉄栗生線活性化協議会 議事録

日時：平成 26 年 3 月 27 日(木) 15:10～17:00
場所：三木市役所 4 階特別会議室 出席者：別紙のとおり

開 会

(1) 第 19 回協議会議事録の確認

- ・ 第 19 回協議会の議事概要について議事録の確認がなされた。

(2) 報告事項

① 神戸電鉄・栗生線の状況について

- ・ 神戸電鉄から、資料 2-1 報告。
- ・ 25 年度 4～2 月における栗生線の輸送人員（対前年比）は、定期外+0.6%、定期△1.3%（通勤△1.1%、通学△1.6%）、合計△0.7%となっている。降雪などの特殊要因により定期外において 2 月の対前年比が大幅にプラスとなっていること等もあって、前回協議会時点より改善している。
- ・ なお、仮に 4～2 月の対前年増減率で推移した場合、栗生線の平成 25 年度の年間輸送人員は 662 万人と、計画の 700 万人に対して△38 万人となる計算であるが、4 月に消費税増税を控えていることもあり、3 月末には定期券や回数券等の先買いが予想されることから、最終的な年間輸送人員は昨年並みの 667 万人程度になるのではとみている。

《神戸電鉄栗生線の月別輸送人員の推移について》

- ・ 神戸電鉄から、資料 2-2 報告。
- ・ 栗生線全体の輸送人員は、8 月以降前年を上回っており、高校移転及び降雪の影響が大きい。
- ・ 定期外の輸送人員は、必ずしも年度を追うごとに減少しているわけではない。
- ・ 通勤定期の輸送人員は、減少傾向が深刻。
- ・ 通学定期は、高校移転の影響があるが、その影響を除くと横ばい推移となっている。

○座長から、次の意見（感想）があった。

- ・ 資料 2-1 から、11 月、12 月、2 月の定期外利用が非常に多い。特に 2 月は降雪の影響とのことであったが、資料 2-2 を見ると、2 月の定期外利用者が約 15,000 人多くなっている。もし、栗生線がなければ約 15,000 人の人が雪の中、車等で困っていたということであり、こういった点でも栗生線を持っている価

値を見てとれる。

- ・輸送人員の目標は700万人でありながら、実態は662万人でも、こういったことも含めて数字の意味を見ていただければありがたいと思う。

②平成25年度における協議会の取組状況について

- ・事務局から、資料-3 報告。
- ・「栗生線乗ろうDAY! プログラム」に基づき、以下のイベントが開催された。
2月28日～3月2日、3月7日～9日：おの恋&みつきいバル 参加人数：311人
- ・「栗生線サポーターズくらぶ」（第2期）の入会者数は、第1期3,010人に対して2,581人とどまっている（3月14日現在）。
- ・「第3回栗生線サポーターズくらぶの集い」を3月4日に行い、この回では「和歌山電鉄」の再生を参考事例に、「栗生線の再生には、地域住民の熱意と行動が必要」との呼びかけを行った。
- ・神戸電鉄沿線の魅力を発信していただく「ブログ駅長」を募集している。
- ・「栗生線通勤カムバック補助金」は、300名の募集に対して、35人とどまっている（3月25日現在）。
- ・補助期間を満了した方に対して行った調査によると、今後も栗生線を利用した通勤を継続したいという意向をお持ちの方は、約50%となった。
- ・「神戸電鉄栗生線利用促進活動補助金」は、前回報告したとおり、活用事例は3件と少なく、地域の主体的な取組の輪が広がるよう、引き続きPRに努める。

○その他、モビリティ・マネジメントの状況、企画きっぷ等の販売状況、駅前パーク&ライド駐車場の利用状況、今後の予定等について、資料を基に報告がなされた後、以下の質疑があった。

- ・小学生に対するモビリティ・マネジメントについて、集団で乗車しているが、個人で乗車することに、教育委員会で制限があるところなどある。このあたりはどうか。（座長）
⇒三木市では、知っている範囲でそういうことはない。本事業は、幼少期から電車に乗り慣れてほしい、という目的で行っている。
- ・集団で行くのも良いが、個人で友達同士などで誘い合って、自分たちで切符を買って電車に乗って目的地まで行くというトレーニングをできるようなプログラムがあれば、保護者も付いてくるかもしれないし、良いのではないかと思う。（座長）
⇒教育委員会に確認したところ、学校単位で児童個人での乗車を制限しているところがあるとのことであった。幼少期からのモビリティ・マネジメントの

ためにも今後、その部分を検討していく必要があると考える。

- ・引き続き取組を進めてもらいたい。(座長)

③ ホームページのリニューアルについて

- ・事務局から、資料-4 報告。
- ・地域が主体的に取り組めるような環境づくりを協議会では進めているが、その一環として、ホームページをリニューアルし、地域の方から発信できるようなホームページに変える。

○以下のとおり、意見があった。

- ・ホームページの写真が粟生線と分かりづらく、暗いイメージ。キャッチコピーが、「粟生線の問題は、沿線の皆様すべての問題です。」となっているが、住民は好きではないのではないかと。前向きなキャッチコピーにしてもらいたい。

(3) 議事

- ・事務局から、平成 26 年度の事業計画 (案) (資料-5) について報告。

○以下の意見、質疑応答があった。

- ・無料シャトルバスを検討する際は、バス事業者が協議会委員に入るべきである。また、無料バスということであれば、道路運送法上の網にはかかってこないが、無償といいながら実は有償といったバスも多く見受けられるので、検討の際は前もって相談いただきたい。(運輸局)
- ・コミュニティバスと電車の乗り継ぎとあるが、本当に大事なことである。接続が良くなったらそれを地域の人に広く P R することが大切。(座長)
- ・無料シャトルバスとあるが、具体的な地域は決まっているか。(座長)
⇒まだ決まっていない。それも含めて検討する。
- ・無料シャトルバスを進めていくなら、法との兼ね合いも見ながら、乗りやすいものにしていただきたい。(座長)
- ・ビッグデータの活用とは具体的に何をするか。(座長)
⇒ピタパなどの I C カードのデータを用いて、人の流れを把握し、どのような施策が有効かを探る。(県)
- ・I C カードの利用率はどのくらいか。(座長)
⇒ピタパとイコカを合わせて 3 0 % 程度。(神戸電鉄)
- ・押部谷に住んでいるが、駅を中心としたまちづくりの推進として何をしてもらえるか。(委員)
⇒三木市であれば、駅周辺でも市街化調整区域があるため、その辺りの区域を変

更し活用していく。また、緑が丘でビジョン委員会を立上げ、駅前に高層住宅を建設し、若者層の定住促進を図る事業を進めている。バス交通の再編計画でも神鉄駅をハブとし計画の策定を進める。(三木市)

⇒神戸市は、複合産業団地の企業誘致を通じて神鉄の利用促進を図っている。また、鈴蘭台の駅前で再開発事業を進めている。(三木市)

⇒駅前商店街のアーケードの改修を行った。空き家店舗の活用や今も行っている「陣屋まつり」などのイベントによりにぎわいの創出をしていきたい。(小野市)

- ・駅の周りの開発は分かったが、駅自体の改修はないのか。駅が改修されスロープなどが整備されれば、高齢者も利用しやすくなり、利用促進につながると思うが。駅の改修は無理なのか。(委員)

⇒サービス維持が難しく、便数を減らしている現状で新たな施設投資は難しいと考える。では、どうすれば良いかというところ、近くの例で北条鉄道では、地域がお金を出し、駅舎や手洗いの改修をしている。国の政策もコンパクトシティを進めており、駅の周辺へ施設を集めるような施策が出されている。(座長)

- ・駅を中心としたまちづくりについては、法改正により駅周辺への施設集積などを進める事業に対し、補助の割り増しを受けられるようになった。公共交通の構築とまちづくりが一体となったモデル事業を募集しているので是非検討していただきたい。(運輸局)
- ・本事業計画案を持って、700万人の乗車人員を達成できるよう皆さんの御協力を賜りたい。承認いただけるか。承認されたので、事業計画として進めていただく。(座長)

- ・粟生線通勤“Come Back”補助金交付要綱の一部変更 (資料-6) について報告。

○以下の意見があった。

- ・三木市では、平成26年度から新規の就労者に対して神鉄定期運賃助成を行う。カムバック補助金と併せて、本施策により利用促進を図っていきたい。(会長)
- ・カムバック補助金では、11名の方が継続して神鉄を利用すると答えられた。これは、大きな成果で、今後も継続すれば、神鉄に乗る可能性のある人を取り込める。三木市の施策と併せて進められれば良いかと思う。(座長)
- ・議案2号について承認いただけるか。承認されたのでこのように進めていただく。

(4) その他 神戸電鉄からの提案

- ・神戸電鉄からの提案 (資料-7) について報告。

○以下の補足説明、感想があった。

- ・提案内容の中に、法改正後の『地域公共交通再編事業』とあり、本来であれば法改正後に検証していただくもの。しかし、これと同内容のものについて、提案することは問題ない。(運輸局)
- ・鉄道を幹線としてバスをフィーダーとして扱いましょうというのが、9, 10ページの内容。バスの扱いも協議会の中で話していかないと、役割分担が明確になっていかないと思う。枠組みを変え、地域として栗生線をどう支えていくのかという全体の公共交通の話になってくる。このあたりを議論し、より良い形にもっていけると良い。(座長)
- ・私がイメージしているものは、バス会社が入り、「栗生線沿線地域活性化協議会」で、バスも含めた地域交通ネットワークの議論をしていく。また、同時に栗生線に特化した利用促進は行っていくべきと考えている。よって、全体の話と鉄道の利用促進に特化したものと2つの枠組みで進めることを考えている。(神鉄)
- ・少し唐突感があり、委員の方から意見が出にくいかもしれません。本日策定した事業計画を進めると同時に、提案にあった内容も議論していきましょう。国の補助金の有効に使える事業を行っていければよい。是非、それぞれ議論いただきこの場でまとめていくということを事務局を中心として行っていただきたい。(座長)

○会長から土井座長の退任に対するお礼の言葉と土井座長から退任の挨拶

閉 会

以上

第19回 神戸電鉄粟生線活性化協議会 出席者（敬称略）

○委員

氏名	所属・役職	出欠
三島 功裕	神戸市企画調整局 技術担当部長	
井上 仁志	三木市 まちづくり部長	
岩崎 一喜	小野市 総合政策部長	
三津澤 修	神戸電鉄株式会社 常務取締役 鉄道事業本部長	
武川 潔	押部谷町連合自治協議会会長	
中野 美都子	押部谷町連合自治協議会副会長	
蓬莱 道龍	元 三木地区区長協議会会長	
赤松 敬一	三木市区長協議会連合会会長	
藤本さよ子	NPO法人ひょうごグリーンスタッフ 理事長	欠席
多鹿 豊	小野市商店街理事	
土井 勉	京都大学大学院 工学研究科 特定教授	

○オブザーバー

氏名	所属・役職	出欠
加納 陽之助	国土交通省 近畿運輸局 企画観光部 交通企画課長	
大崎 眞一	国土交通省 近畿運輸局 鉄道部 計画課長	
松本 元生	兵庫県 県土整備部 県土企画局 交通政策課長	
河野 豊	兵庫県 神戸県民局 企画課 課長補佐	
神崎 敏道	兵庫県 北播磨県民局 まちむら交流参事	
竹本 真也	神戸市西区 まちづくり推進部 まちづくり課長	